

「幸せの経済学」を観て

6/30/2011

北村社会福祉士事務所

代表 北村弘之

今回は、上記タイトルのドキュメンタリー映画を観た感想等について触れたいと思います。
この映画は、「グローバル経済で私たちは幸せになれるだろうか?」という問いかけものです。私は一人の民間人として、また企業生活を送った一人として非常に興味がありました。

映画は、この5月21日から一斉公開が始まり、当日の同時開催は何と全国133箇所に及んだようです。

さて、本題に入りたいと思います。

私は55歳で民間企業の従業員を辞め、これまでとは異なった「社会福祉」の領域に進みました。いざ、専門学校で勉強してみると、私の社会知識不足とまたサラリーマン一筋という面もあって改めて次の3項目に気付かされました。

① 何と社会保障対象者(※1)は総人口の約11%の1,341万人

これらの人は社会として税金やボランティア等で公助・共助する必要がある人。

【内訳】介護サービス利用者 418万人（'10/12末）

障害者計 721万人 [身体(366万人)、知的(55万人)、精神障害(300万人)]

生活保護世帯 146万世帯 202万人（'11/3末）

※1 年金、医療、雇用等除く。また一部個人負担有り

② 会社員時代に考える機会の少ない定年後のこと

特に男性の場合、仕事一筋ということと相まって、定年後の長い人生設計を殆ど考えておらず、定年直前になって検討しても遅いと思われました。企業側も「定年後の人生設計」について積極的に関与する必要があると思われれます。それは60歳で定年を迎えても、平均余命の80歳迄20年間という長い人生があるということです。

③ 経済社会がもたらす地域生活の弊害

ここでいう地域とは、田舎という面もありますが、都市部においても買い物難民に代表されるような生活困難者がいるという現実があります。地元、近隣での生活を重視する姿が大切ではないでしょうか。これは経済流通の無駄や雇用促進という面です。

さて、これらは本来「社会学」の領域と思われれますが、「社会福祉学」にも大きく影響している分野です。とりわけ、今回は③の件について「幸せの経済学」のパンフレットより抜粋した部分を提示いたします。皆さんはどのように考えられるでしょうか。

ちなみに、この「幸せの経済学」のドキュメンタリーの制作者の一人ヘレナ・ノーバーク・ホッジさんと対談した内容が次のHPに記載されていますので興味のある方は見てご覧下さい。

<http://ishes.org/interview/>

【豊かさのものさしとは・・・】

あなたは、「豊かさ」を
どのようなものさしで測りますか？
お金を持っていること・・・？
便利で、快適な暮らしをおくること・・・？

これまで、世界では国の豊かさを測る指標として「GNP(国民総生産)」や「GDP(国内総生産)」などが使用されてきました。その指標をもとに、どれだけ経済が成長したかということが、豊かな国の定義だと信じられてきたのです。

この考え方は、グローバリゼーションの波に乗って世界中に広がり、さまざまな地域に“開発”という名の“消費社会”が流れ込みました。その結果、便利で快適な生活が実現されましたが、一方ではコミュニティーの伝統的な暮らしが崩壊してしまいました。かつてそこにはなかったはずの、新たな貧困が生まれたのです。

「幸せ=物質的な豊かさ」という定義が崩れ去った今こそ、経済成長の追求に代わる新しい「豊かさ」を考える時なのではないでしょうか。

【グローバル経済でいいのか・・・】

グローバリゼーションとは？

世界的な事業展開のため、規制緩和をすること。
多国籍企業が市場を独占すること。 (国際協力・相互依存・国際社会と混同しやすい)

産業革命以後、私たちは GDP で測る経済的な成長が、人間の幸せにつながると信じてきました。実際には GDP は万能ではなく、環境汚染の対策費用や、戦争で使われる戦費なども GDP を押し上げます。消費が GDP を押し上げるので、自宅で花を育てるよりも、花を買ったほうがいいのです。人と人が支えあうボランティア活動や物の交換は GDP に換算されません。GDP に測られているのは「商業化」であり、人間の幸せでないとは理解しなければなりません。

GDP を押し上げるために、世界各国の政府により、より大規模な経済が推奨され、大量消費、大量生産体制が拡大しています。その結果、資源が大量に浪費され、地球環境破壊の進行や、生物多様性の喪失につながっています。そして、工業化、効率化により働き手は少なくて済むようになり、富める人が生まれる一方で、機械のように働かなければならない労働者や大量の失業者を生み出しているのです。

【グローバル経済の代替モデルして・・・】

ローカリゼーションとは？

多国籍企業や大手銀行を地域財政から排除すること。

地域が求める商品の生産を高め、輸出への依存を減らすこと。

(国際的な孤立・保護主義・貿易の廃止とは異なる)

これまでの経済モデルであるグローバリゼーションの代替モデルとして提案しているのがローカリゼーションです。

ローカリゼーションとは、人と自然との距離を短くすることです。人間的な規模での経済であれば、自分の選択が及ぼす影響を直に感じるができるのです。生産者や消費者としての自分達の行動によってどんな結果が生み出されるのかわかれば、人々の行為がより道徳的になります。そして、地域に根ざした暮らしによって文化や生態系を大切に、人と人とのつながりを再構築することができます。

ローカリゼーションとは、幸せになるための経済学なのです。

大切なのは、地球の自然環境を守るだけでなく、人類の幸福感も取り戻す方向に進むことです。

(これ以降、私が考えること)

□ 私達ができることは

① 近場の街の小売店を多いに利用する

多くの街の小売店は市街地できた大規模店に押され、縮小や撤退が相次いでいます。私達は、地元根付いて生活している以上、買い物が近く、会話と人情にあふれた、そして集う場がある街が大切だと思います。これはお互いが助け合う、そして見える仲間(信頼)として本来の人間生活となります。

② 近所の顔見知りを作る

子どもは、親や友達だけで育つものでなく祖父母や近隣の人たちによる生活環境で育つものなのです。すでに核家族化は防ぎようもありませんが、せめて近所にいる人には声をかけたり、会釈して顔見知りをつくりませんか。そうなれば、今回のような震災で地元に影響があっても助け合うことができます。

③ 誇れる街、尊敬される日本作り

経済の成長を目指すことは必要かも知れませんが、そこに住む人間の尊厳が失われていく経済成長はどうでしょうか。今回の原発問題もそうです。我が街に誇れる自慢話や、外国から尊敬される日本を目指しませんか。

以上